

江の島ヨットクラブ

50周年



1964—2014

一般社団法人 江の島ヨットクラブ

江の島ヨットクラブ 50周年

ENOSHIMA YACHT CLUB 50th ANNIVERSARY

目 次

- | | |
|-------------------|---------|
| 1. ご挨拶 | 会長 浪川 宏 |
| 2. 創立から現在まで | 青淵 隆督 |
| 3. 江の島ヨットクラブができた頃 | 久野 桂 |
| 4. アルバム | |
| 5. 歴代会長 | |
| 6. 江の島ヨットクラブの航跡 | |
| 7. 定款 | |



(一社)江の島ヨットクラブ 創立50周年ご挨拶

江の島ヨットクラブ会長 浪川 宏

本年2014年は、2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定されました感慨の深い年でございますが、皆様のお力とご指導をもちまして、当江の島ヨットクラブも創立50周年を迎えさせていただくこととなりました。

しかしこの春は当クラブにとりまして、法人登記関連法の改正により従来の社団法人からの変更登記を余儀なくされ、公益法人となるか営利法人になるかの選択を迫られました。神奈川県法人審査当局との打ち合わせを依頼しました申請担当法律事務所から、EYCとしては今後の公益法人の選択はあり得ないと宣告され、しからば「非営利一般社団法人」へと申請いたしました。しかし、厳しい審査の連続で、そもそもヨットクラブが非営利団体であることへの疑問点が次々と提起されました。

ヨットクラブという呼称の持つ連想から、審査会のご意見は、非営利法人登記に対して否定的であり、当クラブの東京オリンピック以来の歴史と公益活動実績、内山岩太郎県知事(当時)が会長で設立されたことなどを主張しても、世間の常識からは一般に非営利団体とは認められないとの主張が繰り返されました。

結果といたしまして様々なご指摘への逐条回答でのやり取りを経て、かろうじて期限いっぱいの本年4月1日付で非営利一般社団法人、略称(一社)への登記を認められたという次第です。

さらに本年は、これも東京オリンピックとともにあります江の島ヨットハーバークラブハウスの老朽化に伴う建て替え工事の竣工の年でもありました。在来は、施設は何にでも利用できる県有一般財産であったものを港湾管理施設という行政財産に目的変えがなされ、行政財産となった新しい事務所施設内への当クラブの移転の是非が問題になりました。公益性のないプライベートクラブとしての江の島ヨットクラブが、行政財産の中の一室を通年専用利用する理由がないとの県当局の回答であり、立ち退き期限を5月31日とされ苦戦を強いられました。

実際は立ち退き移転先のないホームレスの状態です。旧館は閉鎖され、クラブの荷物を搬出し、6～7月を過ごしながらかつ当局と繰り返し交渉を重ね、一般社団法人への移行申請時と同じようなやり取りを繰り返しました。さらに加えて、今回は当クラブが選定されるのなら我々の方が妥当性が高いという団体が名乗りを上げ競争することになりましたが、これもかろうじてクリアし、7月15日に(一社)江の島ヨットクラブによる1室50m²の専用利用を認められ、新しい部屋に移転することができました。

クラブ文化という考え方のわが国家社会における評価、在り様を、厳しく思い知らされる出来事でした。今後のEYCの進め方についても重要なポイントと言えます。

そのような次第で、この度9月14日に内外の関係各位をご招待申し上げて挙行的いたしました当クラブ創立50周年の記念パーティーの当日には、クラブルームはいまだクラブルームとしての内装工事に何も手がついていないというのが実状でした。

当クラブといたしましては、我が国のセーリング活動の重要な拠点のひとつであるオリンピック記念江の島ヨットハーバーとともに存在し、これからも我が国セーリングスポーツの普及・振興の推進役として、ジュニアからシニアまで、世代を超えた人材育成と組織活動を続けてまいりたいというのが、50年来のこれからも変わらぬクラブの目標でございます。

会員各位におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます、と申し上げますれば、ご挨拶は10年前の40周年パーティーと同じになるところでございました。しかしながら、21世紀に入ったばかりの創立40周年当時の世の中は、まだ右肩に力を入れた状態で、数々のIT企業の創設やM&Aが華やかかなりし時代でした。当時のグローバルマネー経済への対応欲求から、全国どこへ行っても同様な経済的利益を目標とし、都市型生活への順応を目指す活動をしてきた我が国でした。あれからさらに10年を経て、今や総人口の減少と高齢社会の発現の中で、「経済システムのグローバル化が進むのと同様並行で、人々のローカル思考は深まりを見せつつあり(松永恵子大阪市立大学准教授)」と表現され、今までと違う社会の目標が必要になってきています。全国一律のマネー資本主義から地域地区毎の文化と資本主義を育成し、地域文化の醸成が社会の目標になるべきであるといわれる時代になっています。

私たちは海をテーマにクラブ文化を培っております。海という世界共通の概念を舞台にセーリングスポーツを実践しています。21世紀に至る近代世界では、海は基本概念として、万国共通に「Sea」であり「うみ」でした。

でもそれだけではないのではないのでしょうか。BC7000年代という今を去る9000年前の縄文住居や石器が発掘される島、奈良時代の役小角が創設し弘法大師、頼朝、実朝以来の、聖と俗が入り混じって造り上げてきた江ノ島、陸繋島という特異地形現象である江ノ島と片瀬海岸、腰越海岸、稲村ヶ崎の美しい陸岸に囲まれた海、これが私達の活動の拠点です。世界のどこにもないこの環境を私たちの「里の海」と呼ぶべきではないのでしょうか。

海は現代では陸からの景色としての海しかなく、海からの景色も踏まえた「海文化」が欠落しています。「相模灘」とは海から視線の古い呼び方でもあります。

県により「開かれたヨットハーバー・湘南港を作る」ことをモットーに今回の建て替えは行われましたが、単に誰でも使えるハーバーにするのではなく、この江ノ島の海を地域の文化「里の海」として地域文化を興してゆくべきであります。私たちセーリング関係者はこの前提に立って活動し、ヨットクラブは人を育て、スポーツを振興し、地域文化を醸成してゆかなくてはならないと考えます。これからの(一社)江の島ヨットクラブはこの前提に立って江の島に集う様々な組織・機関とも協力してゆかなくてはなりません。これを機会に、会員各位におかれましては、新しい海辺のクラブハウスで一杯のコーヒーをお飲みいただきながら、海を語るひとときをお持ち頂くことが続けられますよう、クラブ全体で努力して参る所存でございます。



江の島ヨットクラブ、 創立から現在まで

青淵 隆督

1. 江の島ヨットクラブの誕生

1964年のオリンピックヨット会場が正式に江の島と決まったのが、1959(昭34)年。そして、江の島ヨットハーバーの着工式が、五輪競技のトップを切って1961(昭36)年5月11日に行われ、内山岩太郎神奈川県知事の手で、江の島岩礁爆破のスイッチが押され、東洋一のヨットハーバーの建設工事が始まった。クラブハウスの設計は、ヨットを表現する、大きく風をはらんだ帆が船体の上に(3階屋根のデザイン)1階部分は船体であり、2階3階は(3角屋根の帆に囲まれた)コックピットの表現で、東京工業大学 谷口吉生教授の下で、東大ヨット部出身の山田水城建築設計事務所に決定。ハーバー、クラブハウスの総工費は45億5千万円(オリンピック組織委員会24億5千万円、神奈川県21億円)であった。クラブハウス建築工事(清水建設)、電気工事(共栄社)、暖房設備(第一設備、*冷房は不要との小澤吉太郎先生の一言でとり止め)今から53年前の話である。

2. 海上自衛隊、海上保安庁の協力

こうして東京オリンピックヨット競技は10月12日、海上自衛隊、橋本一佐指揮の艦船72隻、航空機2機、車両10台、通信機120台、音楽隊員100名、総勢2,500名が、レース運営に協力。また、海上保安庁から、第3管区海上保安本部を中心に広島、名古屋、大坂、近畿地区からの応援で、巡視艇13隻が集結、海外から参加した役員選手、観光客等の事故防止、会場警備、治安の維持等、競技運営に協力して頂き、オリンピック運営については国内外を問わず参加各国からも、大きな評価を頂き、オリンピック終了後も、海外からの見学者で賑わったことであった。

3. ヨット競技、人間愛の金メダル

我らが日本のヨット競技の成績は、フライング級 山田貴司(21位)、スター級 石井正行・大久保孝隆史(13位)、FD級 田上泰利・松田健次郎(15位)、5.5メートル級 松本富士也・吉田正雄・萩原毅(14位)、ドラゴン級 棚町三郎(17位)の6種目に出場。()内は最終順位。日本選手団としては、瞬間風速15mの吹き荒れる風と波の中、世界の強豪を相手に善戦しましたが入賞には至らず残念でした。

FD級(フライングダッチマン級)レースでは、スウェーデン艇のキエ兄弟が、激しい競り合いの勝負所で、ライバルのオーストラリア艇の選手が荒波に攫われたのを見つけ、レースを中断し好敵手を救助、国境と勝敗を越えた人命救助と全世界で称賛され、東京オリンピック江の島ヨット競技人間愛の金メダルと大きく報道され話題となりました。

4. 江の島ヨットクラブの発足

こうして1964年(昭39)1月16日、設立発起人内山岩太郎で江の島ヨットクラブ設立準備委員会発足。8月18日 設立総会を迎え、欧米型の格調高いクラブを目指して発足、ヨットの普及、ジュニアの育成、ヨットマンとしての社交の場としてのヨットクラブと言うことで、江の島ヨットバーバーの施設の利用については全部ヨットクラブに任されていたが――。

5. 「貴様ら何者だ！」事件

クラブ発足2年目のある日(日時不詳)藤村事務局長の頃、見知らぬ長靴履きの男達がクラブハウス内をウロウロしているのを見た事務局長が「貴様ら何者だ」と詰問したところ、「我々は県会議員である、江の島ヨットクラブの視察に来た。そう言う貴方は何方か?」「小生は江の島ヨットクラブの事務局長だが、このクラブは会員の紹介か、事前の見学申込みを頂ければ会場ご案内させて頂くが――」「ヨットクラブ建設には県費から、21億の出費が出ておる。そのための視察だ。ヨットクラブ会員だけの施設ではない」とのやりとりで、お引き取り頂いたが、県民の一部からでも、船置き場について不満でもあったのかもしれない。漏れ聞くとところによると、県議会でも話題になったそうである。

6. 「レストラン グランドホテル」の撤退

1963年(昭38)食堂経営契約をしたグランドホテルが江の島ヨットクラブから撤退。左手に白い布、ジャケットにネクタイ着用のボーイさんが立ち、白いテーブルクロスに白いシーツの椅子。その椅子に濡れた身なりのまま座り、「ボーイさんラーメン」と、注文されたのでは敵わない。Sea Frontにウェットハウスを作るべきであった。と、今更反省してももう遅い。

ここまでクラブ設立以来のエピソードについて述べて参りましたが、じゃ、これからどうすればいいのか、何をすべきなのか。

7. 「江の島ヨットクラブここにあり！」世界に発信

今こそ、クルーザーも、ディンギーもジュニアも、セイラビリティも、一つになって、「江の島ヨットクラブ、ここに在り！」と胸を張って叫べるようなクラブになって貰いたいと思います。江の島ヨットクラブから、先ず、地域のみなさんに、そして、神奈川県に、日本セーリング連盟に、日本各地のヨットクラブに、そして、世界各地のヨットクラブに、声高らかに発信しようではありませんか。



江の島ヨットクラブができた頃

久野 桂

ヨットを始めたのは大学を出てから、昭和30年代の初頭、横浜の貯木場にあったシーホースクラブでした。その後シーラス（1号艇でした）、しばらくして小さなクルーザーを作り、アニトラと名付けて乗っていました。

江の島に最初に行ったのは、東京オリンピックの直前のことでした。どこからか連絡が来て、外国選手役員の歓迎会を開くがヨットハーバーにクルーザーがないのはみっともないので、できるだけ皆で来てくれというものでした。当日はけっこう風雨の強い中でしたが、ヨットハーバーの周りには20艇以上集まっていました。中でパーティーが始まった気配はあっても何の連絡もなく、結局招待は間違いだったと告げられました。仕方なく真っ暗の中を引き返さざるをえませんでした。どうしてこのようなことが起きたか今でも謎です。

当時はクルーザーと競技用ディンギーとはそれぞれ別の団体に属していて、両者間のコミュニケーションはあまり良好とは言えなかったようです。

オリンピックが終わって、ヨットハーバーが一般に開放されると早速係留させてもらいました。その当時はまだ港内にはあちこちに数隻があるだけでした。

その少し前に貯木場が工事で係留できなくなり、その後三浦半島のまわりを数か月ごとに移動するホームレス状態だったので、江の島に落ち着くことができ本当に助かりました。その頃またヨットクラブにも入会しました。創立当初の会員はオリンピック競技のホストクラブにふさわしく、ヨット界の先だちのほか政財界のお歴々が顔をそろえ、設備も欧米のものに劣らない物を目指していました。2度オリンピックに出た名選手の石井正行氏は私のクラスメートですが、彼でさえクラブの会員になったのはより後です。先日50周年の記念式典で長年の会員として表彰されましたが、厳密には私は創立以来のメンバーとは言えません。

（㊤創立半年後に入会）

食堂には真っ白なテーブルクロスがかかり、制服のウエイターが注文をとりききて、帰るときにサインをすれば月末に払えばよいというシステムでした。しかしヨットの人たちは自分の船で何か作って食べるという習慣が定着していたせいも、利用の実績が多かったとは言えなかったようです。

食堂デッキの横にはプールがあって、会員は自由に使えることになっていました。ある夏の日ヨットに泊まっていて、暑いので夜中にプールに泳ぎに行きました。少したって気が付くと管理人が出てきてじっと見ていました。叱られるのかと思っていると、規則によって利用者がいるときは見張りをつけることになっているということだそうです。知らぬとはいえ、申し訳ないことをしたと、早々に引き揚げてきました。

当時のことで一番驚いたのは、ある日湘南港事務所から手紙が来て、今後ハーバーは日曜日には閉鎖されるという内容の通知がありました。日曜日に使えないヨットハーバーなんてあるのかと思いましたが、これは間もなく撤回されました。労働協約上の不備が原因と聞きました。他にも9時にならないと玄関が開かないなど当初から役所組織とクラブという存在との食い合わせの悪さのようなことはあったようです。

その頃はほとんど毎週末をヨットで過ごしていました。小田急沿線に住む私にとっては電車一本で来れ、もやいを解けばすぐに出港できる便利さの恩恵を十分に受けることができました。後輩の学生の何人かに手伝ってもらっていましたが、彼らはウィークデーにも来て乗っていたようです。その中の一人に今ジュニアの指導をしている青山前副会長がいました。多分私がヨットクラブにした最大の貢献でしょう。

その後海外や国内で転勤があったりして、船の管理はすっかり仲間まかせになってしまいました。何年かして帰ってくると、物の置き場所、ロープのアレンジなど一つ一つ尋ねないとわからないという情けない状態でした。クルーザーの運航はクルーの管理や艇の整備など片手間のできることでないの、それ以後は完全なお客様になってしまいました。

しかしヨットや江の島ヨットクラブの経験は国際活動の場では大いに役にたち、多くの方が共通の趣味を持つことに驚きました。その結果、バルト海から地中海まで各地でセーリングやヨットクラブに招待されました。痛感することはヨットがどこでも本当に一般の市民に近いところにあることでした。

また、各地のヨットクラブの施設と運営の立派さにも驚きました。共通しているのは、ヨットを持つ人の何倍ものヨットを持たない人、ヨットに乗らない人が会員として参加していて、彼らに社交の場あるいは家族のリクリエーションの場として活用されていることです。江の島も多分当初はこのようなクラブをイメージして作られたものと思われる。

50周年を機に新しい法人として、そして新しいクラブルームでスタートした江の島ヨットクラブが末永く存続し、理想の姿に発展していくことを願ってやみません。



1964年東京オリンピックのシンボル船：やまゆり

さようなら&ありがとう 東京オリンピックヨットハウス
江の島ヨットクラブの50年は貴方と共に

どうぞよろしく 新ヨットハウス



新・旧のヨットハウスがみられる貴重な写真です。
写真提供:ハーバーマスター桑名眞彦氏

さようなら ヨットハウス

海から帰った私たちを
いつもやさしく迎えてくれた
ドアを開けて入るだけで
ちょっとうれしかったクラブルーム
大好きだった ウェットカフェ

新ヨットハウスも素敵だけど…

ヨットハウスの50年
青春のステージをありがとう

東京オリンピックの勇姿とともに 貴方を忘れません



SINCE 1964 TOKYO OLYMPICS~2015

**50 Years of Memories
Sail with us Forever**



35°18'N/139°29'E
Founded 1964 Tokyo Olympics



さよなら&ありがとう 旧ヨットハウス

E.Y.C.
CLUB ROOM

事務局

江の島ヨットクラブ

社団法人
江の島ヨットクラブ



2014 05 31



江の島ヨットクラブは
6月1日より取事務
所として安井センター
へ移転しました。
ご不便をおかけ致し
ますがご了承下さい
ますようお願い申し
上げます。

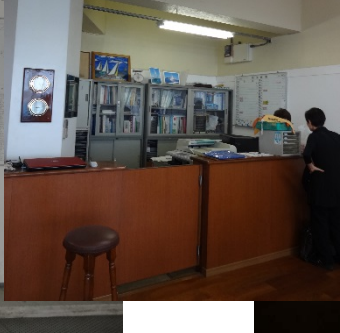
EYC事務所携帯
080-5880-0261
EYC近藤携帯
090-6146-3188



2014 05 31



1964 第18回オリンピック東京大

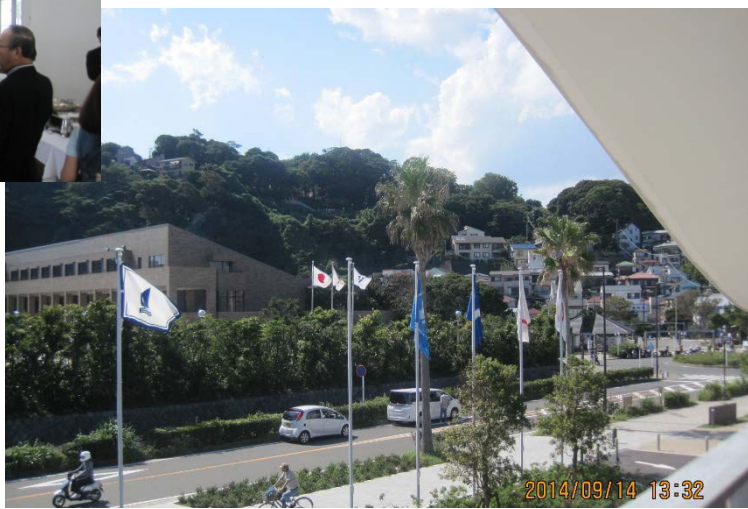
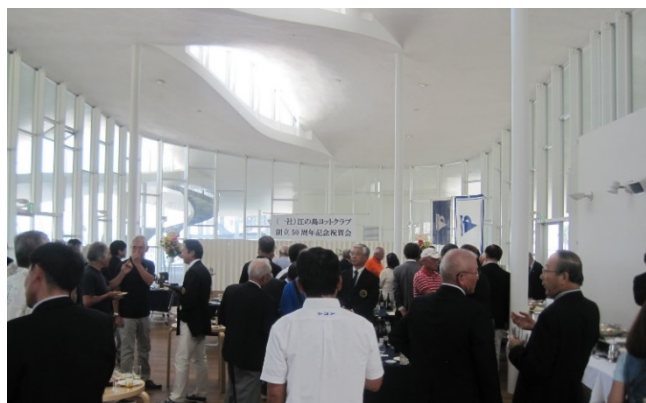


50周年祝賀会

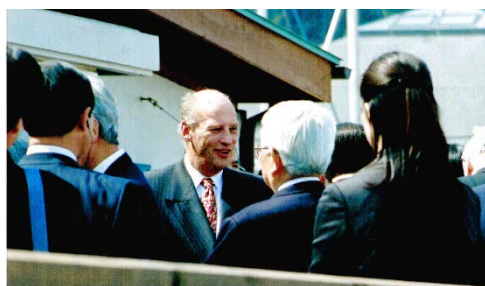


感謝状 ヤマザキナビスコ(株)
代表取締役社長 飯島 茂彰様

50年表彰(50年間個人会員6名)
青淵 隆督 様、久野 桂 様
岩田 禎夫 様、福田 豊 様
田中 清勝 様、山岸 弘 様



日本・ノルウェー友好記念『ノルウェーフレンドシップヨットレース』誕生のひとコマ



東京オリンピックの観覧艇「やまゆり」で歓迎する江の島ヨットクラブ役員、オリンピックセーラー齋藤愛子さん他⇒



江の島ヨットハーバーでヨットの手入れをされる東京オリンピック当時のハラル皇太子
20140706 朝日新聞記事より



東京オリンピックとノルウェーフレンドシップヨットレース誕生の思い出

第5代会長 松本富士也

2001年3月28日、21世紀初の国賓としてノルウェー国王ハラル5世夫妻が来日された。

その37年前、東京オリンピックのヨット選手として参加された当時の皇太子は思い出の江の島、明るい湘南の海の再訪を望まれた。国賓として迎えられ、天皇・皇后が同道されるので、宮内庁・警視庁総出の分刻みの警護体制が生まれ、EYCにもその協力が要請された。

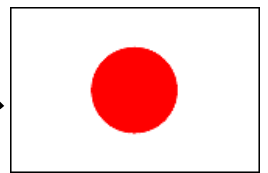
東京オリンピック当時の選手仲間、組織・支援をした多くの人々が国王になられたノルウェーの元選手との旧交を温めたいと楽しみに待っていた。1964年当時、平和で和やか、レース会場の江の島と選手村(大磯ロングビーチホテル)間の送迎バスに、家族と一緒に乗ったり、選手村を訪問することができた。ハンサムで人気者の皇太子の部屋には、日本の美女がいつも来ていたり、選手たちも一緒に飲み交わしたり、皇太子を葉山の古い料亭に連れ出したり、今では考えられない平和で穏やかなよき時代であった。

天皇・皇后、国王ご夫妻の江の島ご来訪の日は、晴天のレース日和、小さな帆を右に左にジュニアの帆走練習をご覧になった。当時たまたま江の島ヨットクラブ会長であった私は、天皇・皇后と、同じ5.5クラスの競争仲間であった国王夫妻をご案内する栄誉を担ったが、天皇がヨットに乗ったこともあり、よく御存じなのには驚かされた。お帰りの際にはセーリング訓練をしていたジュニアクラブの子供たちがウェットスーツのまま「美智子様～、ソニヤ様～」と黄色い声を張り上げてお見送りをした。

ノルウェー国王夫妻のご来訪を記念して、ノルウェー王国のシンボルである記念杯：バイキングシップを頂き、2002年春に第1回ノルウェーフレンドシップヨットレースを主催、以後、毎年江の島ヨットクラブの代表的レースの一つとして盛大に行われている。

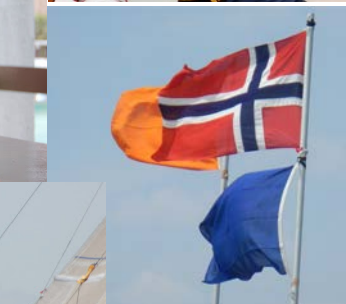


ノルウェーフレンドシップヨットレース



ノルウェーフレンドシップヨットレース杯
バイキングシップ
Norway Friendship Yacht Race Cup
Viking Ship





はばたけ 江の島ヨットクラブジュニア



春夏秋冬強風の時も風のない時も、どんなコンディションにも対応すべく練習に励むジュニアです。その姿は大人たちにも頑張る力を与えてくれます。



STOP! IDLING

CO₂

Save the OCEAN!

ストップ!アイドリング 残したいのはきれいな海

Let Posidon Live!
 2015
 Environmental
 Friendly
 Project



入部式

卒部式

Santosa National Optimist & Byte Championships

2003 JAPAN CUP



KEIKYU 2003 年
全日本外洋ヨット選手権大会

JAPAN CUP 部門 シリーズ 総合成績 (Total of JAPAN CUP A, JAPAN CUP B)

Rank 1: Inshore (L1.0), Rank 2: Inshore (L1.0), Rank 3: Inshore (L1.0), Rank 4: Inshore (L1.0)
Rank 5: Inshore (L1.0), Rank 6: Offshore (L1.0), Ranking System: Low Point System

Hull No.	Yacht Name	Rank 1		Rank 2		Rank 3		Rank 4		Rank 5		Total
		Pos	Pts	Pos	Pts	Pos	Pts	Pos	Pts	Pos	Pts	
JPN 1720 DIMER CTR		4	6,000	2	2,000	0	0	0	0	0	0	18,000
JPN 4776 SEA BARK 1		1	1,000	0	0	1	1,000	0	0	0	0	17,000
JPN 7000 SHARON		8	8,000	0	0	3	3,000	0	0	0	0	16,000
JPN 4880 KOSHIKI		7	7,000	0	0	10	10,000	0	0	0	0	15,000
JPN 5002 HOSHIZUKA		10	10,000	0	0	4	4,000	0	0	0	0	14,000
JPN 5060 PANTILLON		3	3,000	0	0	8	8,000	0	0	0	0	13,000
JPN 5077 GREAT FISHBOWL		10	10,000	0	0	11	11,000	0	0	0	0	21,000
JPN 5014 SHIBUI VII		2	2,000	0	0	5	5,000	0	0	0	0	17,000
JPN 5050 SUTSU		14	14,000	0	0	16	16,000	0	0	0	0	30,000
JPN 4000 KANAKO		10	10,000	0	0	12	12,000	0	0	0	0	22,000
JPN 5014 KASUJI		11	11,000	0	0	17	17,000	0	0	0	0	28,000
JPN 5066 SUIRO		7	7,000	0	0	6	6,000	0	0	0	0	13,000
JPN 5022 COUCHI OKINA		17	17,000	0	0	7	7,000	0	0	0	0	24,000
JPN 5011 FURET		10	10,000	0	0	9	9,000	0	0	0	0	19,000
JPN 5011 CHIKUDA		6	6,000	0	0	10	10,000	0	0	0	0	16,000
JPN 5068 KOTOHIME		10	10,000	0	0	12	12,000	0	0	0	0	22,000
JPN 5073 SHIPYARDIA		10	10,000	0	0	14	14,000	0	0	0	0	24,000
JPN 5042 TORIYA 8		13	13,000	0	0	10	10,000	0	0	0	0	23,000
JPN 5043 SEIRO 2000		10	10,000	0	0	10	10,000	0	0	0	0	20,000
JPN 5020 OSHIDA		12	12,000	0	0	10	10,000	0	0	0	0	22,000



KEIKYU 2003 年
全日本外洋ヨット選手権大会

ORC Club CUP 部門 シリーズ 総合成績
(Total of ORC Club CUP A, ORC Club CUP B)

Rank 1: Inshore (L1.0), Rank 2: Inshore (L1.0), Rank 3: Inshore (L1.0)
Rank 4: Offshore (L1.0), Ranking System: Low Point System

Hull No.	Yacht Name	Rank 1		Rank 2		Rank 3		Rank 4		Total
		Pos	Pts	Pos	Pts	Pos	Pts	Pos	Pts	
JPN 6070 MALLORY		0	0	4	4,000	0	0	2	2,000	17,000
JPN 6012 MATSUMI		0	0	8	8,000	0	0	1	1,000	9,000
JPN 6010 SHIBAZU		0	0	1	1,000	0	0	6	6,000	10,000
JPN 2221 AZUSA		0	0	0	0	6	6,000	3	3,000	13,000
JPN 5085 MITSUHI		0	0	2	2,000	0	0	7	7,000	13,000
JPN 5118 CENTURY FRONT III		0	0	0	0	11	11,000	0	0	11,000
JPN 5075 OCEAN BOY		0	0	0	0	5	5,000	0	0	12,000
JPN 5068 ARIMA EXPRESS		0	0	0	0	2	2,000	0	0	10,000
JPN 6011 ARKADIA		0	0	0	0	12	12,000	0	0	16,000
JPN 4091 LUCKY LADE V		0	0	0	0	12	12,000	0	0	26,000
JPN 4006 LIBERTY 2		0	0	0	0	7	7,000	0	0	24,000
JPN 6092 BATHAZ		0	0	0	0	9	9,000	0	0	24,000
JPN 5080 SAILI		0	0	0	0	10	10,000	0	0	24,000
JPN 5721 HENSHI		0	0	0	0	14	14,000	0	0	24,000
JPN 5063 SHI TIKI		0	0	0	0	0	0	0	0	24,000



2004~PEARL RACE FINISHの受入&運営

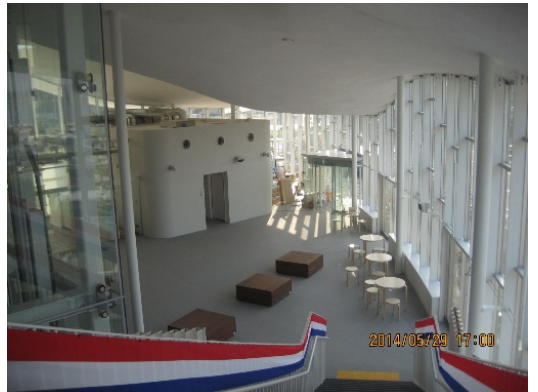


53rd Pearl Race
2012 July



楽しい語らい





歴代会長



初代 内山 岩太郎

1964/8-1971/11



2代 河野 謙三

1972/5-1982/10



3代 小此木 彦三郎

1985/5-1991/11



4代 清家 清

1992/5-1998/4



5代 山本 房生

1998/5-2000/4



6代 松本 富士也

2000/5-2004/4



7代 浪川 宏

2004/5-現在


江の島ヨットクラブの航跡

年 (和暦)	EYCの航跡	主なレース・行事	備考
1964年 (昭和39年)	<p>設立発起人会 (1/16) 内山岩太郎ほか 江の島ヨットクラブ設立準備委員会発足 創立総会 (8/18) 第1回理事会 社団法人設立申請 名誉会長 山形勝見 会長 内山岩太郎 副会長 佐々木秀男 小田千馬木 常務理事 佐々木典比古 小澤吉太郎 理事 山口久像 濱野弥一 金子一郎 筒井佐太郎 古屋徳兵衛 山本房生 カイ・ラルハート 石原慎太郎 監事 谷川武 竹下正彦 社団法人設立許可 (10/1) 社団法人設立登記完了 (10/15) 神奈川県所有財産等賃貸契約 ホテルニューグランド食堂契約</p>	 <p>第18回オリンピック東京大会ヨット競技会場 江の島 (10/11~10/21)</p>	<p>社団法人日本外洋帆走協会設立許可 (2/1)</p> <p>第18回オリンピック東京大会 (10/11~10/21)</p>
1965年 (昭和40年)	<p>総会 (4/17) 定款一部変更 会員総数 203名 特別会員 55名 正会員法人 13名 正会員個人 135名 ジュニア部活動開始 (6/15) 委員長 カイ・ラルハート ジュニア部開設 (7/25) ジュニアディンギー6隻建造 (7月) ライトニング4隻建造 (9月) OP級ディンギー7隻寄贈 (デンマーク王室ヨットクラブ) ジュニア1期生21名 クラブボート(ライトニング)3隻建造 (9/28)</p>	<p>江の島葉山対抗レース (10/10) 1982年まで毎年開催</p> <p>1周年シブプレックパーティー 創立記念レース(継続開催) 第1回江の島ヨットレース ポイントレース(延500艇参加) 以後毎年開催</p>	<p>日本ヨット協会ブリテン“YACHT” 復活1号発行(9月)</p>
1966年 (昭和41年)	<p>総会 (4/23) 経費赤字克服案可決(施設借用範囲縮小) (契約先神奈川県から県弘済会へ変更) ジュニア部活動場所移動(旧セール工場へ) ジュニア2期生25名</p>	<p>ドイツ スポーツ少年団来訪 スイス スターフリートセレクトアリー来訪 モス級ワールドチャンピオン来訪 アメリカ ライトニング協会コモドア来訪 ポイントレース 63回実施(延978艇参加)</p>	<p>第1回00AKR実施</p>
1967年 (昭和42年)	<p>総会 (5/28) 定款一部変更 ジュニアクラブハウス宿泊設備 第1期工事完成 ジュニア3期生35名 ジュニアディンギー8隻入手 OP級ディンギー15隻入手 A級ディンギー2隻寄贈(松田栄夫) モス級ディンギー6隻寄贈 (富士コココーラ株) OP級ディンギー2隻寄贈(小澤吉太郎)</p>	<p>在日外国人特派員ヨットスコードロン来訪50名(4月) 西ドイツ スポーツユージェント来訪80名 ブラジル艦隊士官候補生来訪100名 ポイントレース(延740艇参加)</p> 	<p>日本高等学校体育連盟FJ級採用 極東選手権大会開催(江の島) ジブシーモス世界一周226日間 女子ヨット連盟 全日本公式レース承認</p>
1968年 (昭和43年)	<p>総会 (5/23) 会員総数 201名 特別会員懇談会 (12/14)</p>		<p>メキシコオリンピック (ヨット参加辞退)</p>

1969年 (昭和44年)	EYCニュース発行(2/1) クラブ艇保管業務のため県弘済会へ3名出向 クラブ事務所移転 フリッパー3隻寄贈(カイ・ラルハート/ デンマーク王室ヨットクラブ)		江の島ヨットハーバー使用量値上げ (係留料・陸置料)
1970年 (昭和45年)	やまゆり披露パーティー(9/27) 日米親善パーティー(11月)	横須賀ヨットクラブメンバーと親善レース OP級全日本選手権大会 江の島 江の島六社対抗レース (都庁・日本鋼管・日産・三菱・北辰・千代田化工)	学連470級ディンギー採用内定
1971年 (昭和46年)	やまゆり遭難事故(2/8) 1名落水水死 やまゆり神奈川県から譲渡(5/9) 80万円 内山岩太郎会長(元神奈川県知事)急逝 (11/19)	成人の日祝賀パーティー 第1回家族親睦パーティー(4/4) 江の島ウィークレガッタ 下田ヨットクラブジュニア来訪 20名(11/23)	JYA初のバッチテスト実施 全日本モス級大谷たかを3連勝 (セールクロスにテフロン使用)
1972年 (昭和47年)	内山岩太郎追悼会(2/2) 河野謙三会長就任パーティー(11/22) 会員総数 193名 名誉会長 山形勝見 会長 河野謙三 副会長 浜野弥一 常務理事 小澤吉太郎	パラグアイ国大統領非公式来訪 オリンピックユースキャンプ参加17名(団長小澤吉太郎) OP級全日本選手権 ヨット講習会(90名参加) 全国高校ヨット選手権大会(8/8-12) 江の島	ミュンヘンオリンピック 学連A級ディンギー廃止
1973年 (昭和48年)	レディース委員会活動 湘南港内整備等業務委託契約 200万円	キースムストー コーチ 招聘(イギリス) ポイントレース 9回実施(延305艇参加) 西ドイツ スポーツ青少年団来訪(10/1)	学連740級ディンギー採用
1974年 (昭和49年)	EYC創立10周年記念パーティー(1/15)	EYC創立10周年記念レース OP級全日本選手権大会(江の島ジュニア1.2.3位) ポイントレース 9回開催(延320艇参加)	
1975年 (昭和50年)		ポイントレース10回開催	太平洋横断単独レース (1位戸塚 2位武市 3位堀江) 沖縄海洋博
1976年 (昭和51年)	湘南港管理に関する神奈川県姿勢・方針の 変化(EYC港内委託事業等の増額要求) 神奈川県と折衝会議(9/17)(山口副会長、 小澤常務理事と八木教育長) 山形勝見名誉会長(JYA会長)逝去(10/29) 総会(11/1) 会員総数 195名 特別会員 39名 法人正会員 18名 個人正会員 138名 名誉会長 山形勝見 会長 河野謙三 副会長 山口久像 野村光正 常務理事 小澤吉太郎	ジュニア高校生やまゆりクルージング(8/16-18) 伊豆方面 やまゆりをエンジョイする会(11/28) 	モントリオールオリンピック 江の島ヨットハーバー使用料値上げ (4月～) 関谷健哉 JYA 会長逝去(4/25)
1977年 (昭和52年)	会員数 197名 神奈川県との会談(5/21)(河野会長と八木 教育長、宮川土木部長) 神奈川県との会談(10/17)(河野会長と八木 教育長、宮川土木部長)個人会員使用32ブ ース(陸置28、係留4)のクラブ名義への変更 業務委託費230万円	第42回全日本学生選手権大会(8/25-28) ヨットオリンピック強化レース支援(11/19-23) 第1回オリンピックウィーク(11/19-23)	470級世界選手権(浜名湖)
1978年 (昭和53年)	EYCのあり方会談(5/11) EYC改組問題 (河野会長、野村副会長、小澤常務理事と陌 間副知事、八木教育長、宮川土木部長) 総会(5/27) 理事2名増員可決 役員改選(会長一任から会員推薦へ変更) 業務委託費250万円 臨時総会(7/11) 定款一部変更	ヨット安全講習会(100名)(7/2) 小型船舶検査受験促進 援助業務開始 公共機関事業への協力(やまゆりの活用) 県湘南児童相談所里親研修会ヨット体験(隔年開催) 第2回オリンピックウィーク(10/7-10) 中国ヨット視察団レース見学(10/8)	竹下登 JYA 会長就任 バルティックレガッタ (470級優勝 小松・箱守) 世界クォータートン選手権(佐島)

1979年 (昭和54年)	江の島クルーザーサミット (7/29) (竹下登 JYA 会長、佐藤文生大分県連、小澤吉太郎常務理事ほか) 救助艇えぼし購入 (9月) 購入費 450万円	日比親善少年ヨット交歓行事 14名派遣 (3/22-27) フィリピン 0P級世界選手権 タイパタヤビーチ ジュニア2名派遣 中国ヨット視察団来日 EYG 見学 (5/2-9) 第3回オリンピックウィーク (11/2-5)	470級ワールド (8/10-16) オランダ メデンブリック (甲斐・小宮優勝) レーザーワールド (佐藤藍子6位) アドミラルカップ大遭難 IYRU ボートセーリング正式採用 戸塚ヨットスクール事故
1980年 (昭和55年)		日比親善少年ヨット交歓行事 10名招待 0P級世界選手権 3名派遣 やまゆり稼働 41日 公共機関への協力等	モスクワオリンピック (日本不参加)
1981年 (昭和56年)	ジュニアハウス内装完成 神奈川県との会談 (2/11・4/27)	クルーザーに乗ろう会 91名 (10/25) (以後毎年継続) ヨット教室開催	
1982年 (昭和57年)	ジュニアハウス階層祝賀会	0P級全日本選手権大会 (江の島) ヨット教室 2回開催 (以後継続)	JYA 会員 1万人突破 (創立50周年)
1983年 (昭和58年)	神奈川県との会談 (2/14・10/1) やまゆり大修理 (修理費 600万円) 神奈川県に理事就任依頼 原正義 (県理事)	江の島ウィーク レース (ブレ大会) 春分レースと懇親パーティー やまゆり しょうがい児童体験乗船 40名	
1984年 (昭和59年)	総会 (5/26) 会員総数 199名 特別会員 33名 法人正会員 16名 個人正会員 155名 会長 未定 (長洲県知事就任固辞) 副会長 山口久像 清家清 常務理事 小澤吉太郎 平田豊 県理事 2名欠員 市理事 葉山峻	EYG 創立20周年記念行事 祝賀パーティー 東京オリンピック20周年記念 第1回江の島ウィーク レース開催 (10/7-9) (以後継続) ネプチューンヨットレース オリンピックレガッタ 505級太平洋選手権大会 神子元レース やまゆり稼働 45日 藤沢市しょうがい児童 40名・県湘南児童相談所児童 20名など	ロサンゼルスオリンピック
1985年 (昭和60年)	総会 会長 小此木彦三郎 就任 参与 松浦光利 就任 会員総数 198名 特別会員 32名 法人正会員 16名 個人正会員 150名 事務局人事 (11月) 事務局長・管理部長 竹下勤造 庶務・経理担当 羽田節子 運営サービス部長・えぼし艇長 桑名真彦 やまゆり艇長・運営サービス補佐 東磯治郎 ジュニア指導・運営サービス補佐 酒井敏裕 平田豊常務理事逝去 (12/29)	505級太平洋選手権大会 海上運動会 会員親睦レース 3回開催 会員親睦会 2回開催 27名 (やまゆり) ヨット教室 2回開催 やまゆり 公共機関への協力等 体験乗船 94名	
1986年 (昭和61年)	総会 常務理事 松浦光利 就任 副会長 平田克己 就任 やまゆり係留料半額免除に減額 救助艇の 扱いがなくなる (係留費 47.8万円)	第19回スナイプ西半球及び東洋選手権大会 フェスタ湘南ヨットレース (113艇参加)	
1987年 (昭和62年)	総会 会員総数 196名 特別会員 32名 法人正会員 16名 個人正会員 148名 アマチュア無線局設置 やまゆり新エンジン設置 (43馬力) 理事 竹下真彦逝去 (6/27)	ネプチューンヨットレース 江の島花火見物の夕 (やまゆり)	小田急セーリングクラブ開設

<p>1988年 (昭和63年)</p>	<p>総会(7/20) 定款一部変更 会 長 小此木彦三郎 副会長 清家清 平田克己 顧 問 古屋徳兵衛 常務理事 松浦光利 理 事 葉山峻(藤沢市長) 江ノ島電鉄株 小田急電鉄株 石原慎太郎 山本房生 亀谷彰夫 林幹雄 福島拳人 岩田禎夫 川島正通 亀井澄夫 貝道和昭 朝日生命 富士コココーラ株 欠員(神奈川県) 監 事 平野喜美夫 堀内繁樹 須原真司 副会長山口久俊逝去(2/25) 事務局長竹下勲造退職日高和重就任(3/31) ジュニア指導部員小林栄二(8/8) 会員名簿発行 フォークリフト購入(11/22)(322.5万円)</p>	<p>小沢記念少年少女ヨットレース EYC・小田急セーリングクラブ親睦レース ソウルオリンピック選手団激励の会(7/30)(江の島)</p> 	<p>ソウルオリンピック</p>
<p>1989年 (平成元年)</p>	<p>ジュニアYellowチーム構想(5月)</p>	<p>藤沢市津波対策訓練協力(以後継続)</p>	
<p>1990年 (平成2年)</p>	<p>総会(5/24) 定款一部変更 係留艇整備用鉄船台修理(125万円)(5月) 亀谷彰夫理事逝去(6/21) 事務局長日高和重退職</p>	<p>ファイヤーボール級世界選手権大会(参加8国・49艇)</p>	<p>サーフ90開催 焼却炉灰飛散によるクルーザーデッキ・オーニング焼損(県弘済会と62万円で示談)</p>
<p>1991年 (平成3年)</p>	<p>総会 会員総数 201名 特別会員 32名 法人正会員 16名 個人正会員 153名 小此木彦三郎会長逝去(11/4)</p>	<p>シンガポールチャンギヨットクラブとの交歓レース 18名来日(6/7-12)(ジュニア) キリンカメヤカップヨットレース(7/12)</p>	
<p>1992年 (平成4年)</p>	<p>清家清会長代行 総会(6/6) 会 長 清家清 副会長 平田克己 常務理事 松浦光利 理 事 葉山峻(藤沢市長) 江ノ島電鉄株 小田急電鉄株 石原慎太郎 岩田禎夫 山本房生貝道和昭 福島拳人 川島正通 平野喜美夫 須原真司 富士コココーラ株 日本郵船株 監 事 丹羽文雄 堀内繁樹 福田豊 古屋徳兵衛顧問逝去(11/7)</p>	<p>ネプチューンヨットレース(以後継続) サンセットレース(以後継続) シンガポールチャンギヨットクラブとの交歓レース (8名シンガポール派遣) 県教育長主催「マリンスポーツ講習会」協力(6/24-25) (以後継続) 藤沢市津波対策訓練海上避難指導(えぼし)(以後継続) 藤沢市国際市民大学体験航海協力(やまゆり)</p>	<p>神奈川県警湘南港事務所開設</p>
<p>1993年 (平成5年)</p>	<p>ジュニア部指導艇さがみ購入(280万円) 通常総会</p>		
<p>1994年 (平成6年)</p>	<p>総会 賛助会員制度導入 県教育庁許可 会員総数 198名 特別会員 32名 法人正会員 16名 個人正会員 150名</p>	<p>マスターズレース(新設) シンガポールチャンギヨットクラブとの交歓レース (14名シンガポール派遣) EYCNEWS年5回発行</p>	<p>1998年開催国体ヨット競技のための湘南港大改造を機に公共ハーバー化進行 ヨットクラブの理解度推進のための情報発信・提供を積極的に実施</p>
<p>1995年 (平成7年)</p>	<p>総会(6/22) 定款一部変更理事復活 理 事 山下長兵衛(神奈川県副知事) 野村靖夫(神奈川県教育長) 山本捷雄(藤沢市長) 副会長 山下長兵衛 選出</p>	<p>オリンピックウィーク(日本ヨット協会に協力) 藤沢市ボーイスカウト海上訓練(やまゆり) シンガポールチャンギヨットクラブとの交歓レース (シンガポール11名来訪) 県立かながわ女性センター親子ヨット教室(参加60名)</p>	

<p>1996年 (平成8年)</p>	<p>総会 会長 清家清 副会長 山下長兵衛 山本房生 常務理事 福島拳人 理事 野村靖夫 瀧上隆司 佐藤安弘 青山篤 石井正行 押小路実弘 貝道和昭 木村学 西田勝彦 林幹雄 平田克己 松本富士也 山分信 柴田善昭 熊川晋治 監事 堀内繁樹 福田豊 吉川圭二 桑名真彦運営サービス部長 海上保安庁より 海難救助・海難防止貢献の感謝状授与(7月) 平田克己理事 JSAF1996年度ゴールドメダル 受賞(11月) やまゆり大修理(キール・ラダー)</p>	<p>親子のためのヨット教室(以後継続)</p> 	
<p>1997年 (平成9年)</p>	<p>総会(3/15) 制度改革委員会設置 イギリス製訓練艇(沖電気株寄贈)</p>	<p>体験学習(相模原市立共和中学校)(6/12) リハーサル国体開催(10月)</p>	
<p>1998年 (平成10年)</p>	<p>総会(7/27) 定款一部変更 会員総数 213名 特別会員 34名 法人正会員 16名 個人正会員 150名 賛助会員 13名 会長 山本房生 副会長 松本富士也 貝道和昭 常務理事 平野喜美夫 理事 山下長兵衛 小森良治(県教育長) 山本捷雄 北中誠 佐藤安弘 石井正行 沖尚武 貝道和昭 児玉登 清家清 中村満夫 浪川宏 平田克己 山分信 柴田善昭 熊川晋治 監事 藤木幸太 曾我壽郎 島田清四郎</p>	<p>第53回国民体育大会(かながわゆめ国体)(9/12-15) 湘南地区ボーイスカウトサブリーダー研修 セーリング体験(12/12.13.23) スナイプ級西半球及び東洋選手権(11/1-7)</p>	
<p>1999年 (平成11年)</p>	<p>臨時総会(11/3) 定款一部変更 レンタルヨットサービス開始(県連共同事業)</p>	<p>やまゆり やまゆり社会貢献事業 藤沢市老人福祉センター(5/9.9/21) 県市町村行政シンポジウム(5/23) 私立湘南学園体験学習(6/16) 社会福祉法人マハヤナ学園(8/27) クルーズ体験セーリング(以後継続) 第31回OP級全日本選手権大会(10/30-11/2) 江の島</p>	
<p>2000年 (平成12年)</p>	<p>総会 定款一部変更 会員総数 187名 特別会員 28名 法人正会員 11名 個人正会員 131名 賛助会員 18名 会長 松本富士也 副会長 貝道和昭 浪川宏 常務理事 平野喜美夫 名誉会員 清家清 平田克己 理事 山本捷雄(藤沢市長) 山本房生 沖尚武 竹下政義 中村満夫 西田勝彦 山分信 吉川勝己 児玉達雄 荒井孝一 監事 曾我壽郎 久野桂 福田豊</p>	<p>熱海ランデブーレース(11/28) スパマリーナ熱海訪問 イルミネーションフェスティバル 参加60艇(以後継続)</p> 	

<p>2001年 (平成13年)</p>	<p>臨時総会(2/24) 特別行事運営費(200万円内) 今上天皇・皇后両陛下下幸(3/28) ノルウェー国王ハロルド五世・同王妃来訪 (3/28) えぼし二世号購入(アルピン 27.5)(10/25)</p>	<p>シンガポールチャンギーヨットクラブとの交歓レース (江の島)</p>	<p>第11回A級ディンギー選手権 (6/30-7/1) 江の島</p>
<p>2002年 (平成14年)</p>	<p>総会 会長 松本富士也 副会長 貝道和昭 浪川宏 常務理事 平野喜美夫 名誉会員 清家清 平田克己 理事 沖尚武 竹下政義 中村満夫 西田勝彦 佐野充 中瀬昭 成田松義 平林滋 高橋雅之 監事 青山篤 久野桂 福島拳人 運営サービス部長桑名真彦(株)湘南なぎさパークに転籍 (株)湘南なぎさパーク・湘南港ポートサービス補助業務委託契約(えぼし orOH 提供) さがみ修理(エンジン取替) 臨時総会(6/30) 特別基金返還 特別基金取扱に関する細則変更の実施日9月1日に決定(8月31日まで退会者基金返還) 竹下政義逝去 高橋雅之逝去</p>	<p>ノルウェーフレンドシップレース(4/14)(以後継続) 県立かながわ女性センター共催親子体験セーリング (4/22) ミニトン全日本選手権(9/14.15) アジア大会 OP級 男子優勝 飯東潮吹 女子準優勝 木内蓉子(江の島ジュニア出身) SSFスポーツエイド補助事業(7月-2月)</p> 	<p>JSAF 日本一周フラッグリレー(5/21) 油壺創立25周年記念レース(協力)</p>
<p>2003年 (平成15年)</p>	<p>総会(5/25)</p>	<p>ノルウェーフレンドシップレース(4/6) ジャパンカップ(10/30-11/3) 江の島 ジャパンカップ表彰式(11/6)品川パシフィックホテル ドラゴン級全日本選手権(11/8-9)</p>	
<p>2004年 (平成16年)</p>	<p>総会(3/28) 会員総数 294名 特別会員 19名 法人正会員 7名 個人正会員 116名 賛助会員 113名 クルー会員 39名</p>	<p>鳥羽パールレース(7/23-25) 江の島</p>	<p>アテネオリンピック</p>
<p>2005年 (平成17年)</p>	<p>予算総会(3/27) 湘南港指定管理者申請(EYH) 通常総会(5/29)</p>	<p>新年会(1/23) 安全講習会(1/29・30) 第4回ノルウェーフレンドシップヨットレース(4/3) EYCクルザー・ボートイントレース(1/30・2/13・3/13・4/24・5/15・6/19・7/10・8/21・10・16・11/13・12/11) セイビリティ江の島 アケセテイング・インストラクター養成講座他 鎌倉養護学校クルザー体験(5/8) 第11回親子ヨットスクール(7/9・10・16・17) 第46回鳥羽パールレース(江の島フィニッシュ)(7/22~24) 江の島油壺対抗レース(8/6) 江の島開催 オープンウォータースイミング(8/13・14) 市立片瀬小学校体験(10/31) イルミネーションフェスティバル(12/23~25) クリスマスパーティー(12/24)</p>	<p>清家清元会長逝去(4月) やまゆり倶楽部設立(5/1)</p>

<p>2006年 (平成18年)</p>	<p>予算総会 (3/26) 通常総会 (5/28) 会員総数 130名 特別会員 18名 法人正会員 4名 個人正会員 107名 (賛助会員 127名) (クルー会員 39名) ジュニア会員 96名 会長 浪川宏 副会長 青山篤 林幹雄 常務理事 星野博正 理事 山本捷雄 佐野充 原田浩二 齊藤待子中村満夫 松木武男 齋藤通生 作田智恵子 西田勝彦 三浦雄一 松本真也 監事 平野喜美夫 久野桂 貝道和昭 定款一部変更認可 (10/13)</p>	<p>新年会 (1/22) EYCクルーザーボートイントレス(1/15・2/12・5/28・6/18・7/7・8/19・10/15・12/10) 第5回/ルウェーフレントシップヨットレース(4/2) 鎌倉養護学校クルーザー体験(5/14) 第12回親子ヨットスクール7/15・16・22・23) 第47回鳥羽ハーレーズ(江の島フィニッシュ7/21～23) オープンウォータースイミング(8/12・13) 江の島油壺対抗レース(9/9) 油壺開催 ネブチューンヨットレース(9/24) 湘南ヨットフェスティバル(11/11・12) イルミネーションフェスティバル(12/23～25) クリスマスパーティー(12/24)</p>	<p>やまゆり倶楽部総会 (4/22) 会員数 167名 EYC事務所(1階)増床 セイビリアー江の島NPOとして独立 みなとまちづくり協議会 第1回体験クルージング(7/15) 第2回 (10/20・21)</p>
<p>2007年 (平成19年)</p>	<p>予算総会 (3/25) 定款施行(4/1) 通常総会 (5/27)</p>	<p>新年会(1/20) EYCクルーザーボートイントレス(1/14・2/11・3/11・5/20・6/24・7/15・8/18・19・10/14・12/9) 第6回/ルウェーフレントシップヨットレース(4/1) コモドアズカップ(6/6・7) 第13回親子ヨットスクール(7/21・22・28・29) 第48回鳥羽ハーレーズ(7/28～29) 江の島油壺対抗レース(9/8)江の島開催 市立片瀬小学校体験(9/14) ネブチューンヨットレース(9/23) 湘南ヨットフェスティバル(11/3) イルミネーションフェスティバル(12/22～24) クリスマスパーティー(12/22)</p>	<p>みなとまちづくり協議会 体験クルージング(10/10)</p>
<p>2008年 (平成20年)</p>	<p>予算総会 (3/30) 通常総会 (5/25) 会員総数 138名 特別会員 18名 法人正会員 4名 個人正会員 116名 会長 浪川宏 副会長 青山篤 林幹雄 常務理事 星野博正 理事 山本捷雄 齊藤待子 松木武男 作田智恵子 中村満夫 松本真也 監事 久野桂 平野喜美夫 貝道和昭</p>	<p>新年会 (1/19) EYCクルーザーボートイントレス(1/13・2/17・3/9・5/18・6/15・7/13・8/16・11/16・12/14) 第49回ハーレーズ(7/25～27) オープンウォータースイミング(8/9・10) ネブチューンヨットレース(9/28) 湘南ヨットフェスティバル(10/25・26) 第7回/ルウェーフレントシップヨットレース(4/19・20) 第14回親子ヨットスクール(7/12・13・19・20) 市立片瀬小学校体験(9/12) 江の島油壺対抗レース(9/13) 油壺開催 湘南ヨットフェスティバル(10/25・26) 片瀬公民館少年少女探検隊体験(11/8) 物故会員慰霊法要(11/22) 天岳院 イルミネーションフェスティバル(12/20～23) クリスマスパーティー(12/21)</p>	<p>ゴムボート エイボン購入551万円 さがみ代替え艇(チャカ) 280万 チャカ進水式(7/6) 林幹雄理事 県スポーツ功労賞祝賀会(3/6) 湘南国際マラソン(11/16) 江の島スタート 山田水城元会員逝去(9月) 湘南港設計者 みなとまちづくり協議会 体験クルージング(10/25)</p>
<p>2009年 (平成21年)</p>	<p>予算総会 (3/29) 通常総会 (5/31)</p>	<p>新年会 (1/17) EYCクルーザーボートイントレス (1/25・1/22・3/22・7/12・8/21・10/18・12/13) 第8回/ルウェーフレントシップヨットレース(4/18・19) 鎌倉養護学校体験(5/10) コモドアカップ(5/20・21) 第15回親子ヨットスクール(7/18・19) 第50回ハーレーズ(7/24～26) オープンウォータースイミング(8/29・30) 市立片瀬小学校体験(9/11) 江の島油壺対抗レース(9/12) 江の島開催 ネブチューンヨットレース(9/27) 湘南ヨットフェスティバル(10/14・15) 片瀬公民館少年少女探検隊体験(11/14) イルミネーションフェスティバル(12/19～25) クリスマスパーティー(12/20) やまゆりクルーザー体験セーリング 11日間 220名参加</p>	<p>貝道和昭監事 旭日双光章祝賀会(7/16) 第1回ヨットハウス建替え説明会 みなとまちづくり協議会 体験クルージング(10/17・18) 白石康二郎講演会(11/28) EYH主催</p>

2010年 (平成22年)	<p>予算総会 (3/28)</p> <p>通常総会 (5/30)</p> <p>会員総数 147名</p> <p>特別会員 18名</p> <p>法人正会員 5名</p> <p>個人正会員 124名</p> <p>会長 浪川宏</p> <p>副会長 青山篤 林幹雄</p> <p>常務理事 星野博正</p> <p>理事 海老根靖典 斉藤待子 中村満夫 作田智恵子 松木武男 松本真也</p> <p>監事 久野桂 平野喜美夫 貝道和昭</p>	<p>新年会(1/30)</p> <p>EYCクルザーボートイントレス(1/24・2/21・5/16・6/20・7/11・8/22・11/14・12/12)</p> <p>第9回/ルウェフレンドシップヨットレース(4/17・18)</p> <p>鎌倉養護学校体験(5/9)</p> <p>コモトアカップ(6/12)</p> <p>第16回親子ヨットスクール(7/17・18)</p> <p>第51回パドルレース(7/17)</p> <p>市立片瀬小学校体験(9/10)</p> <p>ボブチヨットレース(9/26)</p> <p>江の島油壺対抗レース(9/11) 油壺開催</p> <p>イルミネーションフェスティバル(12/18~25)</p> <p>クリスマスパーティー(12/19)</p> <p>やまゆりクルザー体験セール 11日間 222名参加</p>	<p>チリ地震(2/28) 津波警報</p> <p>みなとまちづくり協議会 体験クルージング(10/16・17)</p>
2011年 (平成23年)	<p>予算総会 (5/29)</p> <p>通常総会 (5/29)</p>	<p>新年会(1/29)</p> <p>EYCクルザーボートイントレス(7回)</p> <p>鎌倉養護学校体験(5/8)</p> <p>第52回パドルレース(7/29~31)</p> <p>オープンウォータースイミング(8/27)</p> <p>市立片瀬小学校体験(9/9)</p> <p>ボブチヨットレース(9/25)</p> <p>片瀬公民館少年少女探検隊体験(11/12)</p> <p>イルミネーションフェスティバル(12/18~26)</p> <p>クリスマスパーティー(12/19)</p> <p>やまゆりクルザー体験セール 11日間 223名参加</p> <p>江の島油壺対抗レース(9/10) 江の島開催</p>	<p>東日本大震災(3/11) 津波警報</p> <p>みなとまちづくり協議会 体験クルージング(10/15・16)</p>
2012年 (平成24年)	<p>予算総会 (3/25)</p> <p>通常総会 (5/27)</p> <p>会員総数 141名</p> <p>特別会員 17名</p> <p>法人正会員 4名</p> <p>個人正会員 120名</p> <p>会長 浪川宏</p> <p>副会長 林幹雄 斉藤待子</p> <p>常務理事 星野博正</p> <p>理事 作田智恵子 中村満夫 松木武男 押小路実弘 寒河江義則 関一人</p> <p>監事 久野桂 貝道和昭 松本富士也</p>	<p>新年会(1/22)</p> <p>EYCクルザーボートイントレス(1/29・3/18・5/20・6/17・7/8・8/19・10/20・11/11)</p> <p>第11回/ルウェフレンドシップヨットレース(4/14・15)</p> <p>鎌倉養護学校体験(5/13)</p> <p>第53回パドルレース(7/27~29)</p> <p>オープンウォータースイミング(8/25・26)</p> <p>市立片瀬小学校体験(9/7)</p> <p>江の島油壺対抗(9/8) 油壺開催</p> <p>ボブチヨットレース(9/23)</p> <p>片瀬公民館少年少女探検隊体験(11/10)</p> <p>イルミネーションフェスティバル(12/22~25)</p> <p>クリスマスパーティー(12/23)</p>	<p>平野喜美夫監事逝去(3月)</p> <p>えぼし新艇購入(630万円) ヤマハDY29 127馬力</p> <p>みなとまちづくり協議会 体験クルージング(10/20・21)</p> <p>平野喜美夫監事お別れ会(10/28)</p> <p>クルザーボートイントレスの11月は ヤマザキヒメの冠レースとして継続</p>
2013年 (平成25年)	<p>予算総会 (3/31)</p> <p>通常総会 (5/26)</p> <p>新公益法人改革に基づき、一般社団法人として申請</p>	<p>新年会(1/26)</p> <p>EYCクルザーボートイントレス(8回)</p> <p>保田クルージング(8/17・18)</p> <p>第12回/ルウェフレンドシップヨットレース(5/18・19)</p> <p>第54回パドルレース(7/26~28)</p> <p>江の島油壺対抗(9/7) 江の島開催</p> <p>コモトアカップ、湘南ヨットフェスティバル(9/22)</p> <p>ボブチヨットレース(9/29)</p>	<p>やまゆり倶楽部は4月から独立 NPO法人帆船やまゆり保存会設立申請(7月認可)</p> <p>みなとまちづくり協議会 ハーバーフェスティバル出店(10/19) 富士宮焼きそば・フランクフルトソーゼージ</p> <p>NPOセイビリティ江の島10周年記念祝賀会(11/17)</p>
2014年 (平成26年)	<p>一般社団法人江の島ヨットクラブ定款許可(3/20)</p> <p>予算総会 (3/30)</p> <p>通常総会 (5/25)</p> <p>会員総数 146名</p> <p>特別会員 17名</p> <p>法人正会員 4名</p> <p>個人正会員 125名</p> <p>会長 浪川宏</p> <p>副会長 押小路実弘 作田智恵子</p> <p>常務理事 星野博正</p> <p>理事 斎藤待子 中村満夫 松木武男 林幹雄 松田雅人 関一人</p> <p>幹事 久野桂 貝道和昭 佐野充</p>	<p>新年会(1/26)</p> <p>新事務所開設(8/9)</p> <p>江の島ヨットクラブ(EYC)50周年記念パーティ(9/14)</p>	<p>江の島新ヨットハウスオープンパーティー(6/1)</p>

定 款

第 1 章 総 則

(名称)

第 1 条 この法人は、一般社団法人江の島ヨットクラブ（以下「クラブ」という。）と称する。

(目的)

第 2 条 このクラブは、ヨットの普及発達、海洋思想の普及及びシーマンシップの育成に関する事業を行い、海洋スポーツの振興とクラブ文化の振興に寄与することを目的とする。

(事業)

第 3 条 このクラブは、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) セーリングスポーツの普及、発展
- (2) 海洋思想の普及、発展
- (3) その他このクラブの目的を達成するために必要な事業

2 前項各号の事業は神奈川県において行うものとする。

(事務所)

第 4 条 このクラブは、主たる事務所を神奈川県藤沢市に置く。

第 2 章 会 員 及 び 社 員

(クラブの構成員)

第 5 条 このクラブの会員は次の3種とし、特別会員と正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般法人法」という。）上の社員とする。

- (1) 特別会員
- (2) 正会員
- (3) 名誉会員

(特別会員)

第 6 条 特別会員は、このクラブの発足に賛同して基金を拠出した個人又は法人、並びにこのクラブに功労があった個人又は法人のうちから理事会が認めた者とする。

(正会員)

第 7 条 正会員は、このクラブの目的に賛同し入会した個人又は法人とする。

2 正会員になろうとする者は、社員2名以上の紹介を得て入会の申し込みを行い、理事会の承認を得なければならない。

(名誉会員)

第 8 条 名誉会員は、このクラブに功労のあった者のうちから理事会において推薦された者とする。

(法人会員)

第 9 条 法人である会員は、その代表者を指定して届け出なければならない。代表者を変更した場合もまた同じとする。

(入会金)

第 10 条 会員は、入会に際し、別に定める規程に従い入会金を納入しなければならない。

2 名誉会員及び特別会員は、理事会の決定により入会金を免除することができる。

3 納入された入会金は、一切返戻されない。

(会費及び諸経費)

第 11 条 会費は、このクラブの事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、別に定める規程に従い会費を納入し、また諸経費を支払わなければならない。

2 名誉会員は、理事会の決定により会費を免除することができる。

3 納入された会費及び諸経費は、一切返戻されない。

(会員の資格の喪失及び任意退会)

第 12 条 次項及び次条のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときはその資格喪失する。

(1) 第 11 条の支払義務を 2 年以上履行しなかったとき

(2) 総社員が同意したとき

(3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき

2 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除名)

第 13 条 会員が、次の各号のいずれかに該当するときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

(1) この定款及び諸規程に違反したとき

(2) クラブの秩序或いは趣旨に反する行為のあったとき

(3) クラブの名誉を汚したとき

(4) その他除名すべき正当な事由があるとき

2 前項の規定により会員を除名しようとするときは、当該総会の日から 1 週間前までに当該会員にその旨を通知し、かつ総会において、その会員に弁明の機会を与えなければならない。

(会員の資格)

第14条 会員の資格は、譲渡できない。

第 3 章 役 員 等 及 び 職 員

(役員の設定)

第15条 このクラブに次の役員を置く。

(1) 理事 6名以上10名以内

(2) 監事 2名又は3名以内

2 理事のうち1名を会長、2名以内を副会長、1名を常務理事とする。

3 前項の会長をもって一般法人法上の代表理事とし、副会長及び常務理事をもって同法第91条第1項第2号の業務執行理事とする。

4 第1項の理事について、理事とその親族等である理事の合計数が、理事の総数の3分の1を超えてはならない。

(役員を選任)

第16条 理事及び監事は、総会の決議により選任する。

2 会長及び副会長並びに常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(役員職務及び権限)

第17条 会長は、このクラブを代表し、その業務を執行する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その業務執行に係る職務を代理する。

3 常務理事は、理事会において別に定めるところにより、クラブの業務を分担執行する。

4 会長、副会長及び常務理事は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

5 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

6 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

7 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、このクラブの業務及び財産の状況を調査することができる。

第18条 役員は、無報酬とする。ただし、常務理事に対しては、総会において定める総額の範囲内で、総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算出した額を報酬等として支給することができる。

(役員任期)

第19条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終

のものに関する定時総会終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

2 理事又は監事は、第15条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後でも、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

(役員解任)

第20条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(名誉会長、顧問)

第21条 理事会において推薦し、総会の承認を得て、任意の機関として、名誉会長1名、顧問若干名を置くことができる。

2 名誉会長は、会長の相談に応じる。

3 顧問は、理事会に出席し、意見を述べることができる。

4 名誉会長、顧問は、総会の決議によって解任することができる。

5 名誉会長及び顧問の報酬は、無報酬とする。

(事務局)

第22条 このクラブに事務局を置くことができる。

2 事務局には事務局長、職員、及び嘱託を置くことができる。

3 重要な職員の任免は理事会の決議を経て会長が行う。

4 事務局に関する規程は、理事会の決議により別に定める。

第4章 総会

(構成及び権限)

第23条 総会は、すべての社員をもって構成する。

2 前項の総会をもって、一般法人法上の社員総会とする。

3 総会は、次の事項について決議する。

(1) 会員の除名

(2) 理事及び監事の選任又は解任

(3) 理事及び監事の報酬等の額

(4) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認

(5) 定款の変更

(6) 解散及び残余財産の処分

(7) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第24条 総会は定時総会として毎年5月に1回開催するほか、3月及び必要がある場合に開催する。

(招集)

- 第25条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。会長は、総会を招集しようとするときは、総会の日時及び場所並びに総会の目的である事項を記載した書面をもって、総会開催の日の1週間前までに、これを社員に通知しなければならない。
- 2 総社員の議決権の10分の1以上の議決権を有する社員は、会長に対し、総会の目的である事項及び招集の理由を示して、総会の招集を請求することができる。

(議長)

- 第26条 総会の議長は、その総会において、出席した社員のうちから選出する。

(定足数及び議決権)

- 第27条 総会は、社員の2分の1以上の出席がなければ会議を開き、議決することはできない。
- 2 総会における議決権は、社員1名につき1個とする。

(決議)

- 第28条 総会の決議は、出席社員の過半数をもっておこなう。
- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総社員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。
- (1) 会員の除名
 - (2) 監事の解任
 - (3) 定款の変更
 - (4) 解散
 - (5) その他法令で定められた事項

- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

- 第29条 総会に出席出来ない社員は、代理人により議決権を行使することができる。
- 2 前項の規定により代理人をもって議決権を行使する社員は、これを出席者とみなす。

(議事録)

- 第30条 総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 総会の議長及び総会に出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第 5 章 理 事 会

(構成及び権限)

- 第 3 1 条 このクラブに理事会を置く。
- 2 理事会は、全ての理事をもって構成する。
 - 3 理事会は次の職務を行う。
 - (1) このクラブの業務執行の決定
 - (2) 理事の職務の執行の監督
 - (3) 会長及び副会長並びに常務理事の選定及び解職

(招集)

- 第 3 2 条 理事会は会長が招集する。
- 2 会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。
 - 3 理事は会長に対し、理事会の目的である事項を示して理事会の招集を請求することができる。

(決議)

- 第 3 3 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定にかかわらず、一般法人法第 96 条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

- 第 3 4 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
- 2 理事会に出席した会長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第 6 章 会 計

(寄付)

- 第 3 5 条 このクラブの事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 3 1 日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

- 第 3 6 条 このクラブの事業計画書及び収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。
- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。

(事業報告及び決算)

第37条 このクラブの事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書(正味財産増減計算書)
- (5) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号及び第4号の書類については、定時総会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、監査報告を主たる事務所に5年間備え置くとともに、定款及び社員名簿を主たる事務所に備え置くものとする。

(余剰金の分配の禁止)

第38条 このクラブは余剰金の分配を行わない。

第7章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第39条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第40条 このクラブは、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第41条 このクラブが清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第8章 公告の方法

(公告の方法)

第42条 このクラブの公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

附 則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第

121 条第 1 項において読み替えて準用する同法 106 条第 1 項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。

- 2 このクラブの最初の会長は浪川宏とする。
- 3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 121 条第 1 項において読み替えて準用する同法 106 条第 1 項に定める特例民法法人の解散の登記と一般法人の設立の登記を行ったときは、第 35 条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。

GOOD BYE !



WELCOME ! OPEN THE DOOR.



江の島ヨットクラブ 50周年
ENOSHIMA YACHT CLUB 50th ANNIVERSARY

発行日 2014年12月20日

発行 一般社団法人 江の島ヨットクラブ
〒251-0036 藤沢市江の島1-12-2

ホームページ <http://www.enoshima-yc.jp/>
E-Mail eyc-mail@cityfujisawa.ne.jp